

★六十六年前の十二月八日を知っていますか？

―太平洋戦争から平和憲法を考える―

◆六十六年前の昨日（十二月八日）日本はアメリカの真珠湾を奇襲し、あの悪夢のような太平洋戦争に突入しました。私たちはこの戦争から何を得たのでしょうか。

★この戦争に反対した人はいた！

◆これに先立って狭い日本国土では国民を養ってゆけないといって、日本は朝鮮や台湾を植民地にし中国をも侵略しました。大東亜戦争の始まりです。

◆しかし、軍部全盛のこの時代に、「いや、慎ましく暮らせば海外の領土を返してもやってゆける。この戦争は道徳的にも間違っている！」と戦争に反対した良心的な人は少なからずいました。

★軍部が押し切った真珠湾攻撃・太平洋戦争

◆しかし、当時の政府はこれに耳を貸さず、ついには一九四一年十二月八日、日本に警告と制裁を行っていたアメリカに対し戦争を始めました。

◆当時の軍部が押し切ったのです。良心的な平和主義の声は軍部の圧倒的勢力の前に消されてしまいました。軍国主義恐るべし！

★戦争を美化する

◆当時の日本はこの戦争を「アジアを西欧から解放する正戦」だと正当化し、道徳的にも正しい聖戦とさえ言いました。

★敗戦そして平和憲法が生まれた

◆一九四五年八月十五日、正当でもなく道徳的にも間違っていたこの戦争はアジアの人々二千万人、日本人三百万人の死者の山を築いて敗戦に終わりました。

◆そして、二度と戦争をしないと国際社会に約束した憲法第九条が生まれました。戦後六十二年間戦争をせず国民はこの狭い国土で平和に暮らしています。

◆皆さん、六十六年前に始まったあの悪夢の戦争を繰り返す事のないよう、この平和憲法を世界の宝物として末永く守ってゆきましょう！

―歩き続けて四十年十ヶ月―

二〇〇七年十二月九日（日） 第四九十回憲法を守る平和行進

浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市紺屋町三〇―一五

★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合

○ご通行中の皆さん、ドライバーの皆さん、こんにちは！

こちらは歩き続けて四十年、第四百九〇回の憲法を守る平和行進です。

○皆さんはいまから六十六年前の昨日、何があつたかご存じですか？

○六十六年前の昨日（十二月八日）は、日本はアメリカの真珠湾を奇襲し、あの悪夢のような太平洋戦争に突入した日です。
今日は、この戦争で何を失い、何を得たのか考えてみましょう。

○日本はその頃、この狭い国土では国民を養ってゆけないと言つて、朝鮮や台湾を植民地とし、中国をも侵略しました。大東亜戦争の始まりです。

○ところが、「慎ましく暮らせば海外の領土を返してもやってゆける。この戦争は道徳的にも間違っている！」と戦争に反対した良心的な人がいました。戦後総理大臣になつた石橋湛山や最高裁判所長官となつた横田喜三郎などです。

○あの時代にこのような良心的平和主義者がいたというのはほつとしますね。

○しかし、当時の政府はこれに耳を貸さず、つい在一九四一年十二月八日、日本に警告と制裁を行つていたアメリカに対し戦争を始めました。軍部が押し切つたのです。良心的平和主義者の声はかき消されました。軍事国家恐るべしです。

○一方、当時の日本はこの戦争を「アジアを西欧から解放する正戦」だと正当化し、道徳的にも正しい聖戦とさえ言つてこの戦争を美化しました。

○一九四五年八月十五日、正当でもなく道徳的にも間違つていたこの戦争は、アジアの人々二千万人、日本人三百万人の死者の山を築いて敗戦に終わりました。

○そして、二度と戦争をしないと国際社会に約束した憲法第九条が生まれました。
この平和憲法のおかげで戦後六十二年間戦争をせず私たちはいまこの狭い国土で平和に暮らしています。

○恐ろしいことにいまでもあの戦争は正しかったと考え、憲法を変えて再び戦争の出来る国の復活を夢見ている人たちがいます。とんでもないことです。

○ご通行中の皆さん、ドライバーの皆さん、こんにちは！

こちらは歩き続けて四十年、浜松市憲法を守る会の第四百九〇回目の平和行進です。

○今日は六十六年前の真珠湾奇襲から始まつた太平洋戦争の悲劇と、そこから生まれた平和憲法について訴えています。

○皆さん、六十六年前に始まつたあの悪夢の戦争を繰り返す事のないよう、この平和憲法を世界の宝物として末永く守つてゆきましょう！
どうぞ、お配りのちらしをご覧ください。